

事業名称	しべつアーティスト・イン・レジデンス～土別の夏		
実行委員会	しべつアーティスト・イン・レジデンス開催実行委員会		
中核館	士別市立博物館		
	住所	〒095-0056 士別市西士別町 2554 番地	
	TEL	0165-22-3320	FAX 0165-22-3320
	ホームページ	http://www.city.shibetsu.lg.jp/www/contents/1433391675766/	
構成団体	士別市立博物館ボランティア友の会、士別市教育研究会、士別市郷土研究会、士美会、士別青年会議所、あさひの郷土資源を活かす会		
事業開始時点の課題分析	士別市立博物館では、平成元年から日本版画協会巡回展を道内で唯一継続的に開催し、道北の過疎地域にありながら第一線の版画家とその作品に触れる機会を提供し、普及事業を重ねてきた。その成果として地域住民によって版画サークルが立ち上げられ、地域住民による版画教室の開催も見られるようになった。また、当実行委員会では、文化庁の助成を受けて、平成 28 年度から 2 ヶ年にわたってアーティストインレジデンスを実施した。これらの事業の成果として、芸術家と地域住民との繋がりが生まれ、文化芸術が地域にとって身近なものとなりつつある一方、そのような成果に触れているのは特定の人々に限られていることが課題となっている。		
事業目的	芸術家の視点から見いだされた地域の特色や魅力を芸術作品として、目に見える形で表現し、地域住民が地域の身近な自然や歴史、文化から新たな価値を発見すると同時に、芸術家との交流を通じた文化芸術の普及を目的とする。		
事業概要	<p>本事業では、日本版画協会所属の版画家 2 名（牧野浩紀氏、中村美穂氏）を芸術家として士別市へ招聘し、8～11 月にかけて数週間の滞在を複数回、合計約 1 ヶ月の滞在中を通じて地域との交流を行い、「土別の夏」をテーマとして作品の制作を行った。</p> <p>滞在中には作品制作に向けた取材、学校向けワークショップ（中学、高校、保育園 2 ヶ所の計 4 回）、制作過程の公開を行った。芸術家と地域住民との交流機会を確保するため、滞在中には地域の農業者や有志による民泊を実施し、地域の風土の取材のために、基幹産業である農業を体験する機会を設けた。成果作品は、牧野浩紀氏が 7 点、中村美穂氏が 1 点制作した。1～2 月に成果展覧会を開催し、本事業の成果を市民に広く普及するとともに、会期中にはギャラリートークと市民向けワークショップ（大人向け、子ども向けの計 2 回）を開催した。会期終了後には展覧会図録を作成し、成果作品の紹介と本事業の概要報告のほか、関係各位からの寄稿文を掲載し、本事業の成果を広く周知した。</p>		

<p>実施項目</p> <p>・</p> <p>実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</p> <p><input type="checkbox"/>イ ユニークベニューの促進</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</p> <p><input type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</p> <p><input type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p>
<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>本事業は、芸術家の専門的視点によって地域の自然や歴史、文化の新たな価値や魅力を引き出し、作品という形で具体化すること、および作品の制作過程の公開や作品の展示、滞在中のワークショップ、地域交流を通して地域の人々が文化芸術への興味関心を高め、地域に根ざした価値観の中に、生きる喜びを見つけることを目標として実施した。</p> <p>様々な文化芸術の普及活動を通じて、幅広い年齢層の地域住民への文化芸術に触れる機会、学ぶ機会を提供し、興味関心を高めるとともに、経験者の技術や知識をさらに深める効果があったと評価できる。地域の自然や歴史、文化をテーマとした作品を通じて、芸術から見た地域の特色を伝えることで、地域住民が地域の魅力を再認識するきっかけとすることができた。また、新聞記事掲載件数やワークショップ・展示会等への参加者数からみても、地域住民の関心が高く、幅広い世代に本事業の取り組みを普及できたと評価できる。</p> <p>本事業の実施によって、士別市での過去30年の版画関連事業の取り組みを改めて広く地域住民に周知することや文化芸術に興味関心を持つ方の裾野拡大につなげることができた。一方で成果展覧会会場アンケートによると、芸術に触れる意義は大きいという認識は強いものの、現状での芸術に触れる機会の充実度は回答者によって意見が大きく分かれた。本事業当初の目的である地域に根ざした新たな価値観の創設のためには、これまで文化芸術に関心の薄かった地域住民にも裾野を広げる必要があり、この取り組みについて、持続的な仕組みづくりが新たな課題として確認することができた。</p>

【事業実績】

士別市立博物館において、士別アーティスト・イン・レジデンス～士別の夏を実施した。

(実施内容)

①芸術家の招聘

牧野浩紀(版画家)、中村美穂(版画家)

※日本版画協会所属、招聘にあたって協会に作家の推薦を依頼。

②滞在と地域との交流(8～11月)

宿泊は、主に地域の農業者と有志の自宅での民泊

③作品の制作

地域交流、市内各所での取材、農業体験を通して感じた「士別の夏」をテーマに作品を制作。小池氏(実行委)自宅アトリエ、生涯学習情報センターいぶき、市立博物館で制作し、いぶきでは制作過程の公開を実施した(3日間,来場者53名)。制作機材や制作期間の関係で、滞を終了後に各々の作家アトリエで作品を完成させた。

④ワークショップの実施

《学校向けワークショップ》

- | | | |
|----------------|----------------------|----------------------|
| ・9/19(水)～21(金) | 士別南中学校美術部「水性木版画体験」 | 参加者 12名(生徒11名、教員1名) |
| ・10/29(月) | あいの実保育園「摺り出しと野菜スタンプ」 | 参加者 26名(大人3名、子ども23名) |
| ・10/30(火) | 多寄保育園「摺り出しと野菜スタンプ」 | 参加者 14名(大人3名、子ども11名) |
| ・11/2(金)・5(月) | 士別翔雲高校美術部「彫らない木版画」 | 参加者 8名(生徒6名、教員2名) |

《市民向けワークショップ》

- | | | |
|----------|-------------------|------------|
| ・2/9(土) | 木口木版画体験 | 参加者 大人13名 |
| ・2/10(日) | 土曜子ども文化村芸術館「版画体験」 | 参加者 子ども11名 |

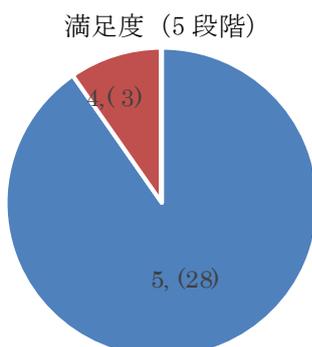
《参加者の声》

「芸術家の方と交流する機会は全くないので、とてもいい機会になりました。子どもたちもとても喜んで取り組み、作品も保護者に見せ、親子で話す姿も見られ良かったです」

「体験しないとわからないことがよくわかった、第2回目やってほしいです」

「手を動かして、絵が思うようにならないことで生まれる面白さが新鮮でした」

「版画の色を変える楽しさを感じました。自分の想像した色より、後でなんとなく作った色の方ができが良く、制作に対する視野が広がりました。」



※5が最大、カッコ内は回答数
※文化村参加者を除く



ワークショップ：あいの実保育園



取材：羊と雲の丘



公開制作



ワークショップ：木口木版画体験

⑤成果作品の公開

・成果展覧会「ここにしかない士別の夏(1/26(土)～2/17(日))

会場:生涯学習情報センターいぶき地下市民ギャラリー 来場者数 920 名

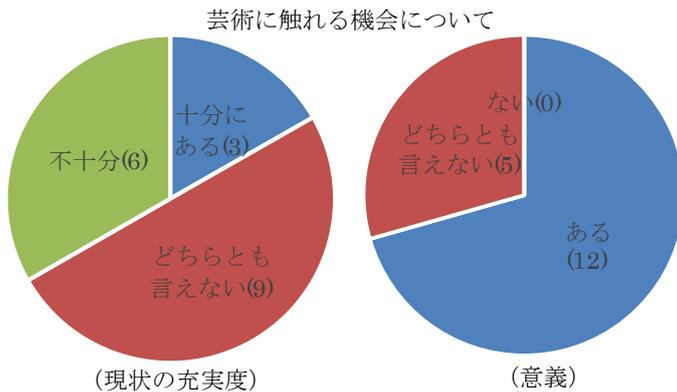
《来場者の声》

「一時的にでも士別で芸術家が滞在する、それに子供たちがふれる機会をいただく、ということはすばらしいと思う。」

「こんなステキな所に住んでるんだ！！あらためて士別の良さ！心大きくして暮らす事の大切を確認しました」

「これらの発表会、一人でも多く見て、理解し、自分の中に生きる糧にしてほしい」

「もっと、もっと続けてほしいです。さらに広がり、ソフト面、ハード面で残るとよいかと思います」



成果展覧会ギャラリートーク

⑥レジデンス成果報告会及びギャラリートーク(2/9(土))来場者数 30 名(大人 29 名、子ども 1 名)

- | | | | |
|-------|---|-----------------------|-------------------|
| (成果物) | ・展覧会図録(A4、300 部) | ・士別の夏をテーマとした作品 版画 8 点 | |
| (広報) | ・ポスター(A2)100 部 | ・チラシ(A4)1000 部 | ・DM(大判はがき)1,500 部 |
| | ・フェイスブック(https://ja-jp.facebook.com/shibetsu.art/) | ・新聞記事掲載 全 17 件 | |

(成果と課題)

芸術家のレジデンス事業は今回で3年目の試みで、実施準備の段階から市内新聞社3社から継続的に取材を受けるなど、17件の記事掲載があり、地域における注目度を高めることができた。地域からの要望もあって実施した中高の美術部や保育園を含めて、全6回のワークショップを開催した。実施後アンケートでは、満足度も高く、貴重な経験ができたという声を多く聞くことができた。文化芸術に触れる機会の少ない当市の教育環境の中で、児童生徒への体験機会の提供は大きな効果があったといえる。また、市民向けワークショップでは、版画サークルの会員も多く参加し、芸術の表現技術の向上にもつなげることができた。

民泊受入先の方々からは、芸術家と生活を共にする中で新たな気づきがあったこと、特に子どもがいる家庭では、子どもの絵に対する興味関心が高まったなどの声が聞かれ、対象は限定されるものの、地域に対して文化芸術を普及できたと評価できる。

本事業の招聘作家の成果作品として、版画家2名による計8点の版画作品を制作した。地域との交流や農業体験を含めた取材活動を経て制作した作品には、地域の自然や風土を表現した。成果展覧会会場でのアンケートでは、改めて士別の良さを感じたという声を聞くことができた。文化芸術を通して地域の魅力、特色を再認識するという点で、大きな効果があったといえる。

本事業でのイベントの参加者として、本事業のイベント参加者として、成果作品展覧会の観覧者数(延べ920名)と成果報告会及びギャラリートークの参加者数(延べ30名)で延べ950名(目標1000名)の参加、ワークショップ参加者数(6回延べ84名)と公開制作来場者(1回延べ53名)で延べ137名(目標6回120名)であり、事業計画の到達目標をおおむね達成できた。